

2 デートDVが起こる社会的要因に気づこう

※ここでは、交際相手からの暴力を「デートDV」とします。

ワーク 1

最初に、次の恋人同士の会話を各自読んでください。

次に、恋人同士の会話を再現するので聞いてください。

- A：今度の日曜日さ、一緒に〇〇遊園地に行こうよ！
B：いいね！〇〇遊園地って大きな観覧車が有名だよ。乗りたいな。
A：観覧車もだけど、お化け屋敷も怖いって評判だよ。入ろうよ！
B：えー！！怖いのが苦手だよ。いやだー。
A：大丈夫、大丈夫！手を握ってあげるから！
B：え〜。絶対だよ。1人で先行くとか無しだよー。でも…楽しみだね！
A：うん。楽しみだね！

会話を読んだ後と再現会話を聞いた後の印象の違いや変化はありましたか。

ワーク 2

(1) 次の1～20の言葉や行動は、社会の中では「女らしさ・男らしさ」どちらにあてはまると考えられていますか。分けてみましょう。

- | | | | |
|--------|------------|-----------|---------|
| 1 活動的 | 2 おとなしい | 3 リーダーシップ | 4 従順、従う |
| 5 経済力 | 6 家事 | 7 弱音を吐かない | 8 強がらない |
| 9 決断力 | 10 人の意見を聞く | 11 度胸 | 12 愛嬌 |
| 13 闘争心 | 14 協調性 | 15 守る | 16 守られる |
| 17 理性的 | 18 感情的 | 19 強い | 20 やさしい |

女らしさ	男らしさ



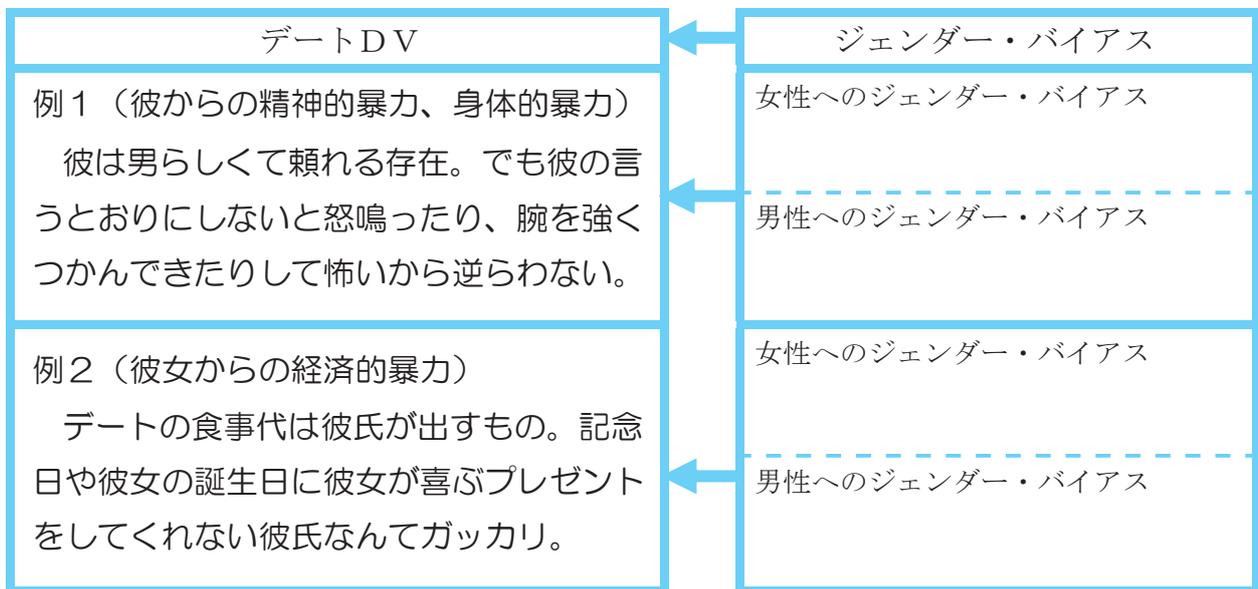
ジェンダー・バイアス（社会的・文化的につくられた性差に基づく偏見）

ジェンダーとは…いわゆる「女らしさ・男らしさ」のこと。 バイアスとは…偏見・先入観のこと。

「10代のデートDV—これってほんとに恋愛？—（改訂版）」パーティ（とちぎ男女共同参画センター）（平成25年度）より

(2) 次のデートDVはどのようなジェンダー・バイアスをもとに起きていると思いますか。

1～20の項目から女性へのジェンダー・バイアス、男性へのジェンダー・バイアスについてそれぞれ選んでみましょう（複数選択可）。



(3) 1～20の項目を「自分にあてはまるもの・自分にあてはまらないもの」に分けてみましょう。そして、グループ内で各自の結果を共有してみましょう。

自分にあてはまるもの	自分にあてはまらないもの

(4) 1～20の項目を「女らしさ・男らしさ」に分けた結果と「自分にあてはまるもの・自分にあてはまらないもの」とに分けた結果の違いから気づいたことを書き出してみましょう。

ワーク 3

あるデートDVの場面を描いた4コママンガです。



「超カンタン デートDVの基礎知識」かなテラス（神奈川県立かながわ男女共同参画センター）（平成30年6月）より

後日、カレシ、カノジョは「ジェンダー・バイアス」について学びました。

カレシはカノジョに、カノジョはカレシに、どのように接するようになると思いますか。

ワーク 4

私たちには「ジェンダー・バイアス」による思い込みがあることを理解した上で、一人ひとりがデートDVについてどのように考えていく必要があると思いますか。

解説 2 デートDVが起こる社会的要因に気づこう

1 ねらい

デートDVが起こる社会的要因の1つである、ジェンダー・バイアス（社会的・文化的につくられた性差に基づく偏見）を自らがもっていることに気づかせ、デートDVは個人の問題ではなく、社会的要因があり、誰にでも起こり得ることだと認識させる。「女らしさ・男らしさ」ではなく、「自分らしさ」を尊重し合える関係について考える。

2 進め方

展開例（50分 3～4人のグループを作る）

学習活動	指導上の留意点
1 ワーク1 (10分) ① 恋人同士の会話を各自が黙読する。その後、教師2名（Aが女性、Bが男性）が再現する会話を聞き、感じたことをグループで話し合う。	<ul style="list-style-type: none">○ 再現会話の実施については性差を強調し過ぎないように留意する。○ 会話文のAが女性、Bが男性であることの違和感を共有する。○ この授業は、私たちはこの会話文になぜ違和感をもってしまうのか、それがデートDVとどう関係するのかについて学ぶ内容であることを説明し、ワーク2に入る。○ 時間に余裕があれば、いくつかのグループに発表を促してもよい。
2 ワーク2 (25分) ① 各グループで（1）を考える。 (1) ② 各グループで（2）を考える。 (2)	<ul style="list-style-type: none">○ （1）は個人的な考えではなく、社会の中で考えられている「女らしさ・男らしさ」で考えて分けるよう注意を促す。○ 各グループでどの項目が「女らしさ・男らしさ」に分けられているかを確認する。○ （1）がジェンダー・バイアスであること、この偏見がデートDVにつながる可能性があることを説明し、（2）を考えるよう伝える。○ 各グループでどのような意見が出ているかを確認する。

- ③ 各自で（3）を考えた後、グループ内で共有する。（3）
- ④ 各グループで（4）を考え、書き出す。（4）

3 ワーク3 (10分)

- ① 各グループで考える。

4 ワーク4 (5分)

- ① 各自で考えをまとめる。

○ デートDVには、ジェンダー・バイアスのような社会的要因もあり、個人の問題ではないことを伝える。

○ 時間があれば、（4）の内容をいくつかのグループに発表するよう促す。

○ いくつかのグループに発表するよう促す。

○ ワークシートを回収し、後日まとめたものを配付するなど、他者の意見や考えに触れる機会を設けてもよい。

3 解説

（1）ワーク1について

ワーク1は、自分の中にある「女らしさ・男らしさ」の思い込みに気づくためのワークである。まず、各自が会話文を黙読することで、「お化け屋敷を怖がるBが女性」、「手を握っていてあげると言うAが男性」という決めつけが、ほとんどの生徒に起こると思われる。次に、会話文の再現をAが女性教員、Bが男性教員で行うことで、多くの生徒は違和感やおかしさを覚えるだろう。生徒とこの違和感を共有した上で、私たちはAが男性、Bが女性と決めつけてしまったのはなぜなのか、このような決めつけがデートDVにどのような関係があるのかを考える時間であることを伝える。

（2）ワーク2について

（1）では、個人の考えではなく社会通念上捉えられている「女らしさ・男らしさ」で考えて分けるようにする。偶数項目が「女らしさ」、奇数項目が「男らしさ」になっている。グループで（1）の分類を終えた後、このような「女らしさ・男らしさ」という決めつけのことを「ジェンダー・バイアス」と言うことを説明する。

ジェンダー・バイアスとは、「社会的・文化的につくられた性差に基づく偏見」のことであり、その社会の中で育ち生活していれば誰もがもってしまう可能性がある。内閣府男女共同参画局の広報誌「共同参画」（平成30年1月号）には世界経済フォーラムが公表した「ジェンダー・ギャップ指数2017」の概要が掲載されている。ジェンダー・ギャップ指数とは、各国の男女格差を指数で測定したもので、日本の順位は

(3) は、「女らしさ・男らしさ」ではなく「自分らしさ」に焦点をあてるワークである。1～20の項目を「自分にあてはまるもの・自分にあてはまらないもの」に分けると、「女らしさ・男らしさ」で分けたときとは異なる分け方になるだろう。さらにグループで各自の結果を共有することで、一人ひとりが性別にとらわれない「その人らしさ」をもった人間なのだと改めて気づくことを目的としている。

(4) では、「女らしさ・男らしさ」という分類よりも「自分にあてはまる・自分にあてはまらない」の方がより自由であることや、グループ内で「自分にあてはまる・自分にあてはまらない」を共有し合った結果、人によって分類が異なるという多様性への気づき、自分らしさや相手らしさをお互いに尊重し合える関係を築くことの大切さへの気づきが書かれることを期待したい。

(3) ワーク 3 について

ワーク 3 では、デートDV場面のマンガを用い、マンガに登場するカレシ、カノジョがこれまでの内容を学んだと仮定し、どのように相手に接するようになるのかを考えさせる。カレシがカノジョに対して支配的でない接し方や、カノジョがカレシに対して自分の意見を言えるといった接し方、カレシ、カノジョともに自分の態度がジェンダー・バイアスによるものかもしれないと気づけるといった意見が出ることを期待したい。また、簡単には自分の言動を変えられないといった意見や、自分の言動とジェンダー・バイアスを結びつけられないかもしれないといった意見などがあれば、それも大切にしたい。ジェンダー・バイアスやデートDVという問題は簡単な問題ではないからこそ、予防という意味でもこのように学ぶ機会が大切であると伝える。

(4) ワーク 4 について

まとめでは、多くの生徒が自らもジェンダー・バイアスをもっていることを認識できたことを前提に、デートDVが個人的な問題ではなく自分にも起こり得ることであること、「女らしさ・男らしさ」よりも「自分らしさ」を大切にしたいなどの記述があれば、本時のねらいが達成できたものとする。

<参考資料>

「広報誌 共同参画 平成 30 年 1 月号」内閣府男女共同参画局（平成 30 年 1 月）

「男女間における暴力に関する調査報告書<概要版>」内閣府男女共同参画局（平成 30 年 3 月）

「デートDV防止プログラム実施者向けワークブック 相手を尊重する関係をつくるために」

著者 山口のり子 梨の木舎（平成 15 年 10 月）